

## 第1回 定住自立圏構想の推進に関する懇談会 議事要旨

### 【開催日時等】

- 開催日時：平成20年11月11日（火）10：30～11：55
- 場 所：総務省8階 第1特別会議室
- 出席者：佐々木座長、小西座長代理、小田切委員、梶井委員、残間委員、辻委員、牧野委員、  
間杉委員（厚生労働省政策統括官）、桑山委員（経済産業省地域経済産業審議官）、大口委員（国土交通省総合政策局長）  
鳩山総務大臣、倉田総務副大臣、中村総務大臣政務官、瀧野事務次官、椎川地域力創造審議官、久元自治行政局長、戸塚政策統括官  
事務局：山崎地域自立応援課長、境参事官

### 【議題】

- （1）資料説明
- （2）意見交換
- （3）その他

### 【配付資料】

- 資料1 定住自立圏構想の推進に関する懇談会開催要領
- 資料2 定住自立圏構想に係る先行実施団体等について
- 資料3 定住自立圏構想関連新聞記事

### 【事務局説明】

- 事務局より、配布資料に基づき説明。

### 【意見交換（概要）】

- 定住自立圏構想が新たな合併のステップという批判的な議論もあるので誤解を解くためにもマネジメントシステムのあり方を詰めるべき。
- 農商工連携の実現が定住自立圏構想の中でも大きな課題。
- 先行実施にあたっては、予想されるデメリットを出してもらい、その対応策をどうするかという手当てを示してもらう必要がある。
- 市町村合併は時間を掛けて行うものだが、定住自立圏構想はスピードが何よりも重要。ただしスピードが上がった時のマネジメントを誰がどのようにするかを明確にすることが必要。
- 定住自立圏は広域市町村圏に代わる新たな広域的な枠組みであるというメッセージが市町村の現場に浸透していない。定住自立圏によってどうなるのかという回答が必要。
- 医療や交通は市町村単独で取り組むのではなく、連携して取り組むのだと

いうメッセージは受け入れられつつあり、今後に期待ができる。

- 定住自立圏構想の過程、理想像のイメージが描きにくい、定住自立圏構想の先行実施団体に応募したメリットが具体的に見えてくれば、理想像も見えてくる。
- 合併市の定住自立圏は非常にいいことだが、普通の市町村からすると1市で定住自立圏というのは想像しにくい。1市を中心とする場合のゴールのイメージが必要。
- 国の支援メニューが定住自立圏構想の中でどのように整理され、また中心市と周辺市町村の役割がどのように明確化されるかを議論していきたい。
- 今年12月には定住自立圏構想に関する要綱を示して、全国の市町村に等しく情報が伝達されるようにしたい。
- 定住自立圏のような構想を推進するには、人材育成が非常に重要であるが、人材育成は急にはできないので、人材面についても支援をしていきたい。
- 定住自立圏構想のキーワードである協定について、地方自治法の中に盛り込むことが必要であれば、地方制度調査会で議論した上で、制度化していくことも充分あり得ると考えている。
- 医療は、オールジャパンの視点だけではなく個別具体的に見るべき課題。熊本の地域連携パスのように、地域にあった取組みが重要であり、先行実施団体の具体的事例をよく見ていきたい。
- 産業クラスターでも、各エリアの特性を活かしつつ、広域連携やグローバルな対応が求められつつある。
- 農商工連携でも地産地消だけでなく、商業や興業の視点を入れて、全国やアジアに輸出するなどの取組が必要。
- オリジナリティーを失わず、やる気をもって取り組む地域を支えていくことが重要。
- やる気をもってもらうことが重要であり、やる気のある地域の制度設計等を見習いながら、他の地域もまねるところは大いにまねればいいし、まねるやる気がないなら割り切らざるを得ない。

(以上)